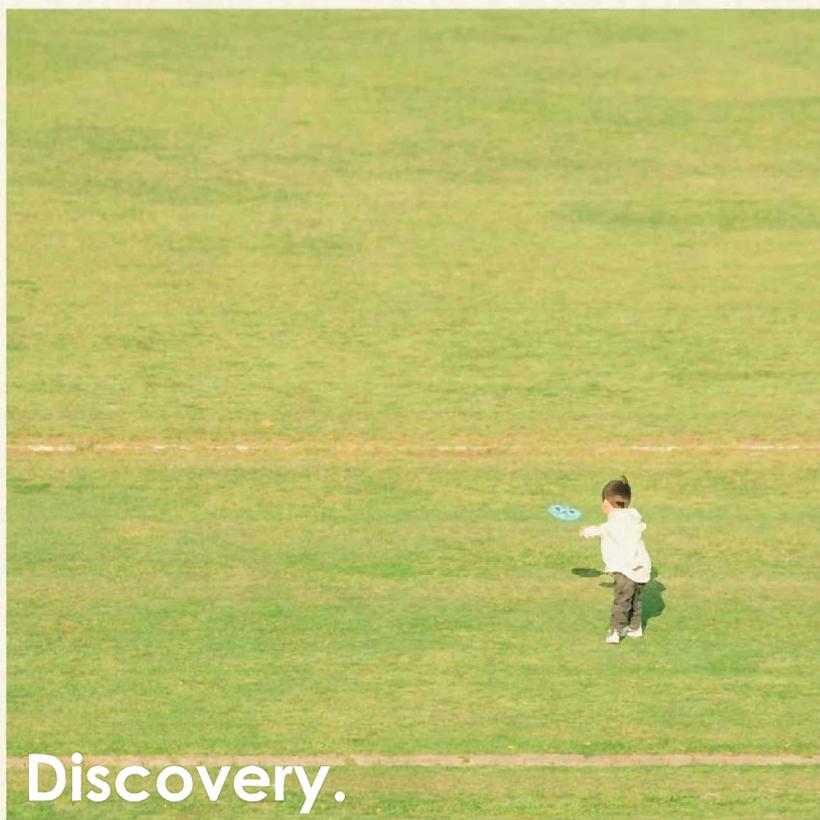


# みつけた!

福岡県保育協会通信



## Discovery.

By mutual confidence and mutual aid,  
Great deeds are done, and great discoveries made;  
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなされる。  
—ギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育協会会長あいさつ	2
福岡県知事あいさつ	3
福岡県保育士会会長あいさつ	4
認定こども園	5
公立発信	6
新園紹介	7
新型コロナウイルス感染症発生時の対応報告	8
令和2年7月豪雨被災報告	9
令和2年7月豪雨対応報告	10
コラム・編集後記	11
令和2年7月豪雨被害視察	12

公益社団法人

福岡県  
保育協会

<https://www.fphk.jp/>

福岡県保育協会 で 検索



公益社団法人福岡県保育協会 会長 万田 康

## 会長あいさつ



新型コロナウイルス感染症の社会への影響が長期化しています。会員の皆様には新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みについて、緊急事態宣言の解除後にも引き続き緊張感を持った取り組みをすすめられ、ご苦勞をされていることと存じます。

会員施設が地域における保育・子育て支援等に継続して対応し、その社会的使命に応えることを支援するため、情報収集や要望活動を強化しています。新型コロナウイルス感染症への対応の長期化をふまえ、令和2年度事業計画の見直しを含め、事業に取り組んでおります。

感染の第2派を防止する観点からも、地域ごとの感染状況を踏まえ、都道府県・地区町村の実情に応じた迅速かつ柔軟の対応を図ることが大切です。これまで以上に、会員施設・都道府県・市・保育組織・県・保育協会と連携した、事業運営を行う必要があります。

WEB会議やインターネット調査等、ICTを活用したコミュニケーションの活性化を図り、加えて各地域の情報収集と発信による、広報機能を強化するとともに、国に対しては、現場の実情を共有しつつ、必要な要望活動に、着実に取り組みます。

さて、子ども子育て家庭を取り巻く状況は急速な少子化の進行や、子育ての孤立感と負担感の増加、貧困や児童虐待の増加、深刻な待機児童問題、人口減少地域における子どもの発達保障の問題など、未だ課題は山積しております。

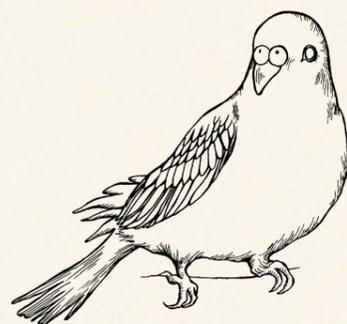
この様ななかにおいて、政省令の検討など、具体的な準備が進められることになっておりますが、どのような制度の変革にあっても、子どもの最善の利益と育ちを保障するという、児童福祉法の理念は、いつの時代にも尊重されるものでございます。その基本理念に基づき、私達保育関係者は日々子ども達や保護者と向き合い、保育の向上を目指して実践を重ねております。

昨年、10月に開始された「幼児教育・保育の無償化」は子育て世代の経済的な負担軽減とともに教育・保育に対する社会の意識変化をもたらしました。

子ども子育て新制度施行後5年の見直しにおいて、公定価格（積み上げ方式）の維持が示され人件費が人事院勧告を反映し、引き上げが図られました。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生による、経済活動の低迷により今後、人事院勧告と公定価格への影響が懸念されます。

また、満3歳児の扱いについては、無償化に伴い保育所等を利用する子どもは、年度の途中に満3歳になっても無償化とならず、翌年度の4月からの利用料の無償が適用され、幼稚園・認定子ども園については、学校教育法で定められていること、幼稚園就園奨励費の満3歳から補助対象を根拠としていることから、年度途中で満3歳になった時から、無償化の対象とされております。給付の対象については、一定の整理はされておりますが、年度による年齢の考え方に、統一すべきと考えます。保護者（子ども）にとっても分かりやすく、事業者にとっても運営しやすくなるのではないのでしょうか。

これまで培われた、歴史の中で築かれた文化を大切にしながら、時代に即応した児童福祉推進の為、次世代を担う子どもたちの為にも、福祉の理念や保育の理念に基づいた保育組織として皆さま方のご活躍をご期待申し上げます。



福岡県知事 小川 洋

## 知事あいさつ



公益社団法人福岡県保育協会におかれましては、日頃から保育の発展普及活動を通じて、子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援に多大な貢献をいただき、深く感謝申し上げます。

昨年12月以降、各国において新型コロナウイルスの感染が拡大し、国内でも各地に広がっています。本県においても、4月7日の緊急事態宣言以降、県民の皆さまの生命と健康を守ることを最優先に、県内での感染とその拡大の防止と経済への影響を小さくしていく対策に全力を挙げているところです。

このような中、保育関係者の皆さまには、社会の安定のため必要なサービスを提供する立場で、現場での感染リスクを抱えながら、必要な保護者への保育の提供に御尽力いただきましたことに、あらためて厚く感謝申し上げます。

県では、保育所等に対し、これまでマスクや消毒液等の衛生用品の配付や感染防止用の備品等の購入を補助してきたところであり、今後も必要な支援について国に要望等を行ってまいります。

さて、県では、喫緊の課題である保育士確保につきまして、今年度から新たに保育士確保対策の係を設置し、取り組みの強化を進めているところです。

まず、保育所においても働き方改革への対応が求められる中、保育所の経営者等を対象にしたセミナーの実施やアドバイザーの派遣、またその成果発表会を実施することにより、保育士が働き続けられる職場環境の構築に取り組んでまいります。

また、貴協会で実施された「保育職場環境に係る調査等」の結果を踏まえ、市町村に対し、保育人材の確保に資する補助金の積極的な活用について働きかけてまいります。

引き続き、平成31年1月に開設した保育士就業マッチングサイト、「ほいく福岡」を通じ、求職登録者やマッチングの更なる増加を図ることで、保育士の就職を強力に支援してまいります。

子どもは福岡県の宝、元気の源です。これからも、保育に携わる皆さま方のご意見を踏まえ、子どもが健やかに育ち、子育てを地域全体で支え応援する社会づくりを進めてまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに貴協会のますますのご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

福岡県保育士就業マッチングサイト

ほいく福岡

よろしく申し上げます!



お問合せ先 福岡県保育士就職支援センター（福岡県保育協会内）

電話：092-582-7955 FAX：092-582-7956

私たちが  
チカラに  
なります!

コーディネーター



福岡県保育協会保育士会会長 上村 初美

## 保育士会会長あいさつ

新型コロナ禍で保育の在り方を考える



皆さん、お変わりなく元気に保育に勤しんでいらっしゃいますか？

今年度は、4月の新学期から新型コロナウイルスの感染・拡大の防止のための取り組みから始まり、日本中だけではなく世界中がパニックに見舞われました。沢山の方々が大切な命を落とされ、それも未だに続き、終息も見ることができません。これからの対策の方向性はウィズコロナを念頭に置き、それぞれがそれぞれの方法で模索していくことが求められています。

皆さんの園に於かれましても、コロナ対策と同時新しい保育の在り方を工夫されていることと思います。子どもたちにとっても今までとは違う習慣が求められています。いろいろな課題が山積しています。しかし、コロナ流行以前も今も、子どもの愉快な笑い声や話し声、泣き声や喧嘩の声、ハッとさせられたり、ほっこりさせられたりと変わらない子どもの姿に、不安だらけの私の心は救われています。子どもには、不思議な力が漲っているようです。私と同じように感じていらっしゃる方もあるかもしれません。

新しい保育の在り方を探る時に、まず頭に浮かぶのは行事の在り方や見せ方です。例えば、運動会など行いたくても行えない場合、どのような保育の発信をすればよいのでしょうか。日常の遊びの中で、活発に活動している姿や遊びの工夫をしている様子をビデオやDVD等で発信し、子どもの成長している姿の過程をお知らせすることはいかがでしょうか。

運動会と銘うたなくても育ちの過程をしっかりと見ていただく事も発信になるのではないかと思います。先日、保護者とお話する機会があり、結果よりこのプロセスこそを知りたいと話されました。この様に考えられる方もあるかと思えます。運動会当日の結果の一日ではなく、子どもの成長していく過程です。その都度、子どもの自信につながる言葉かけや対応はできます。子どもにとっての満足を日々大切にしたいと思えます。この混乱の時期にこそ原点に立ち返ることの大切さを痛感いたします。

指針でも示しているように、「育みたい資質・能力」を念頭に置き、生涯にわたって生きる力の基礎を培うために、子どもの育ちのプロセスをしっかり保障し、子どもの活動が豊かに展開されるための環境を構成し、工夫して保育していかなければなりません。また、研修の在り方にも大きな課題を投げかけています。保育士会独自の研修は、毎年年度の早い時期に実施しています。今年度も皆さんのご希望に添えるよう計画しておりましたが、コロナの影響で残念ながら実施できませんでした。今、コロナのことも少しずつ状況がわかってきています。研修についても、しなくていいのではなく、ぜひ皆さんにも学びの機会が沢山あって欲しいと思えます。福岡県保育協会とも会議を重ねた中で、今後の新しい研修の在り方として、オンライン研修の導入も併せて進めていくことが必要となってくることも討議されています。一人ひとりの受講生の皆さんの思いをその場で受け止める対面研修の良さや過密にならずに保育園で数人同時に受講できるオンライン研修の良さを併用しながら、新しい研修の在り方を構築していきたいと思えます。

コロナの時代だからこそ保育の質が下がるのではなく、子どもが育つプロセスや子どもの育ちを見つめ直す良い機会だと捉えたいと思えます。

ここで悲しいお知らせがあります。私たちの保育の師でありました、北九州市の藤岡佐規子先生が、去る六月二十五日に御逝去されました。藤岡先生は全国の保育士会会長をされ、九州や福岡県また北九州市においても名誉会長を歴任されました。私も藤岡先生にはたくさんのことを教えていただきました。ありがとうございました。「いつも視点は子どもたち」や「不易と流行」を語られていたことがとても印象的です。このコロナ禍の時代も変わっているものと変わってはいけないものを教えていただいている気がいたします。心からご冥福をお祈りいたします。

## 認定こども園

幼保連携型認定こども園 るんびにこどもえん 園長 檜崎 雅

## 数年かけてのプロジェクト

～幼保連携型認定こども園への移行も含めて～



「2度としないけど1度はやるべき」

というのが、幼保連携型認定こども園への移行に關しての率直な感想です(笑)。

令和2年度4月1日より、無事に幼保連携型認定こども園るんびにこどもえんが誕生しましたが、とにかく移行の申請書類の作成が大変で……。

園のシステムや保育、子育て支援事業などは、移行後を見越して、前々から取り組んでいたため特に大変なことはなかったのですが、申請にあたって自園の事業を片端から改めて言語化しないと行かなかったため、言語化能力が低い私にとっては一大事でした。

その過程で、自園の新たな課題や改善点なども見えたので、結果オーライなんですけど、できれば2度としないですね、あの書類の量……。

さて、前園長の定年退職を受けて、平成26年度より私が園長に就任した際、5年プランと10年プランでざっくりとしたプロジェクトスキームを組みました。

幼保連携型認定こども園への移行は、そのプロジェクトの内のひとつです。

まずは、保育課程の見直しと園内外業務のマニュアル作成をばちばち進め、それに伴い、平成17年度より見直しを進めていた保育の質やスタッフの働き方をより向上できるよう、諸々のことに取り組み現在に至っています。現在、当初の10年プロジェクトのちょうど3分の2を経過しました。

幸い、スタッフにも恵まれました。新園舎の建設と同時に、教員免許更新も率先して行い、また新園舎の建設については、各部門からいろいろな意見が出され、それらをベースにして、幼保連携型認定こども園への移行とともに全面ICT化も視野に入れた設計を行い、平成30年度に新園舎が竣工しました。新園舎には室内吊り下げ遊具のスペースがあり、近年課題になっている乳幼児の協調運動機能の低下を起こさせないような環境が整っています。その他にも、乳幼児期の発達のねじれを生じさせない工夫、ひとりひとりの子どもの発達状況に応じた環境、

STEMのベースになる環境などをできる限り詰め込んだ園舎となっています。もちろん、完璧なものではないので、今後少しずつ足したり引いたりを繰り返していくことになります。

10年プロジェクトの残り数年で、あんなことこんなこと、やってみたい楽しみなことがまだまだあります。すべてが実現するわけではないと思いますが、できるだけ楽しんでやっていければと思います。そんな状況ですから、幼保連携型認定こども園へ移行したからといって、当園では、何かが大きく変わったわけではなく、子どもも保護者もスタッフもこれまで通り過ごしています。

移行して一番よかったことは、保護者の就労等に左右されずに子どもの受入れが可能になったことです。例えば、子どもが何らかの疾病や障害を抱えていた場合、保護者は時にフルタイム勤務が難しかったり、子どもの状況によっては退職を余儀なくされたりすることがあります。そんなときでも満3歳以上の1号認定での受け入れが可能になりました。また、子育て支援事業にも保険が適用されるようになったので、安心して卒園児や不登校児を受け入れることも可能になり、切れ目のない支援にあたることができるようになりました。

今年度はCOVID-19の感染拡大により、全世界が想定外の状況に連続して見舞われていますが、当園ではちょうどICT化を終えていたため、登園自粛期間であっても、保護者との連絡などスムーズに行え、家庭で過ごす子どもたちにはYouTubeやZOOMでの保育の提供が毎日のように行うことが出来ました。しかし、WEB保育はあくまでもつなぎであって、やはり直接的に子どもたちに関わることの重要性を改めて感じた日々でした。

現在もまだCOVID-19の収束の兆しは見えませんが、環境や情報に左右されずに愚直に守らなければならないものもあるはずだと思います。今後も、目の前の子どもたちから目をそらさず、地に足つけて粛々と、保育に臨んでいきたいと思えます。

宇美町立早見保育園 園長 大庭 美穂子

## 新しい生活の中で

### はじめに

安産の神様、宇美八幡宮のお膝もと宇美町は、福岡市の東南東約 15 kmの場所に位置し、福岡都市圏に属する町のひとつです。町の南部、東部は山々にこまれ自然豊かな町です。町内には町立保育園 3 園、私立保育園 5 園、認定こども園 2 園、地域型保育施設 3 園、家庭的保育施設 1 園、届出保育施設 1 園、私立幼稚園 3 園があります。今回は宇美町立早見保育園を紹介します。

住宅地と工業団地の間にある本園は、広い園庭を有し、草花にかこまれ鳥たちの声を耳にしながら、子どもたちが存分に戸外遊びを楽しんでいる 90 名定員の保育園です。

「恵まれた自然環境の中で子どもの健康と安全を考え、様々な生活体験をすることにより、生きる力の基礎となる情緒の安定を図り意欲、態度を育てていく。」という保育方針のもと、家庭的でどかな雰囲気の中、子どもたちはのびのびと生活しています。

### 宇美町立こども療育センター「すくすく」との連携

宇美町には心身の発達に気がかりなところがある就学前の乳幼児とその保護者を対象に発達相談や個別、集団療育を行っている宇美町立こども療育センター「すくすく」があります。宇美町立保育園では子どもたちの心身の発達を促すと共に、発達段階に応じて適切な保育ができるよう「すくすく」の専門的なスタッフによる定期的な巡回でさまざまな指導やアドバイスを受けています。

また、年 2 回「すくすく」の臨床発達心理士を招いて、町立 3 園の加配保育士が集まり、加配研修を行うなどの連携を取りながら保育の充実を図っています。

### 地域の方々との関わり

年長組になると地域の方々による、わくわく教室（「英語教室」、「手話教室」、「昔遊び」、「こころの教室」）を行っています。英語教室は地域でレッスンをしている先生に来ていただき、リズムに乗って体を動かしながら、英語の楽しさを教えていただいています。手話教室は、「宇美町手話の会」の皆様と実際に触れ合う中で手話を学び、昔遊びは地元婦人会の皆様



昔懐かしいお手玉、けん玉、あやとりなどの遊びを紹介していただいています。また、こころの教室ではきれいな姿勢や、所作を学んでいます。地域のお祭りにも参加し、地域の方々との体験や交流を楽しんでいます。

また、小学校との交流体験や中学生や高校生の職場体験も受け入れており、子どもたちは様々な地域の方々との交流体験を通し、社会性を学んでいます。

### おわりに

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行の中、予定していた行事が大きく変更、又は中止となり、新しい生活の在り方を模索しながら、あっという間に半年が過ぎました。保護者参加の行事が次々に中止になるという、40年働いてきて初めての経験をしていますが、子どもたち一人一人は年長組が毎日水かけのお世話をしてくれた夏野菜をみんなでおいしくいただき、土日の間に大きくなりすぎたオクラでスタンプ遊びを楽しみ、新しい生活に入る前と変わらない笑顔で、のどかに過ごしています。

8月に入り、どこからやってきたのか園庭の隅にすいかが自生しているのを発見しました。年中組の保育室の近くで育てていたので、年中組に水やりなどのお世話をお願いしました。鳥からつつかれないように子どもたちとかごで覆い、直径 10cmほどの丸いすいかに成長しました。収穫してしばらくは玄関に飾り、眺めて楽しみました。その後、ドキドキしながらすいか割りをし、赤く熟した黒い種のミニチュアすいかに大喜び。割ったすいかをみんなで匂い「わあ、ほんとのすいかの匂いがする！」と園庭に歓声が響き渡りました。

新しい生活に基づいた行事の在り方を模索する中、今まで園全体で行っていた行事をクラス単位で行ったり、あるいは園庭で行ったりする中で行事の見直しになったものもあり、考えたり工夫したりすることの大切さを改めて感じることができました。

まだまだ制限のある生活が続くことになると思いますが、みんなで力を合わせ、既成概念にとらわれることなく、新しい生活の中でも子どもたち一人一人の思いを大切にしながら保育を行っていきたくと思っています。

とまりの森保育園  
園長 楠原 雄大



### 【はじめに】

とまりの森保育園は糸島市に位置し、2020 年 4 月に新築開園致しました。

園舎の周りには夏は田んぼ、冬は麦畑、そして目の前には森があり、自然に囲まれた、とても恵まれた環境で毎日の保育を行っています。

### 【保育目標】

保育を通して育てたい 5 つの力

1. 人の話を聞く力
2. 集中する力・できる力
3. ルールを理解し守る力
4. 良い人間関係を作る力
5. 五感を十分に使って感覚・感性を豊かにし感じ取る力

### 【保育・園の特色】

●「遊び」を保育の中心とし、子どもたちの育ちを援助しています。

0 歳児から保育室はコーナー保育の環境の中で子どもたちひとり一人が主体的に活動し保育者は子どもたちの育ちを見ながら環境設定、遊びの展開を援助していきます。

●乳児期は育児担当保育の中で育ちを保証しています。

乳児期の子どもたちにとっては毎日の自分のお世話（食事・排泄・午睡・衣服の着脱の介助など）をしてくれる大人とのしっかりした信頼関係が乳児期の子どもたちの成長発達にとってとても



青葉やまと保育園  
園長 大里 美保子

### 【はじめに】

「よい生活をする子ども」「自ら考え、行動する子ども」「社会性のある子ども」の 3 つの保育目標を掲げ、2001 年に春日市立「大和保育所」の指定管理園（者）を受諾し 19 年が経ちました。2020 年 2 月に隣の春日市営住宅跡地に新園舎が完成し、48 年の歴史を持った旧園舎とお別れをして、3 月から新園舎での快適な保育園生活が始まりました。

2020 年 4 月「青葉やまと保育園」と改称し、定員は 195 名となりました。春日市は福岡市への通勤圏でもあり待機児童は毎年一定数存在します。開園時期には新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発表されていましたが、なんとか神事のみを執り行なうことが出来ました。

市営住宅が壊され、新園舎が出来上がる過程をつぶさにみてきた子どもたち。クレーン車やコンクリートミキサー車など普段見られない車を見てその働きを本や図鑑で調べたり、工事現場で働く人たちとのやりとり、また更地でのボーリングや土台作り、骨組みができて園舎が形作られていく様子を目のあたりにするなど、子どもたちにとってはたくさんの学びがありました。さらに新園舎に引っ越した後、旧園舎が壊されていく様子も見る事が出来ました。

「新しいのはうれしいけどなんかさみしい」「前の保育園が小さく見える」「木の匂いがするね」「びかびか」「いっぱい部屋がある」子どもたちの様々な思いに共感し応えながら純正福祉会の保育の基盤とする「応答的保育」の実践を継承しています。

### 【保育の基盤としての応答的保育とは】

「応答的保育」とは子どもが環境に働きかけたとき、その環境が応えてくれることを「応答」といいます。子どもたちは環境に働きかけたときにそれに応じる「反応」が返って来ることに「う

大切で。毎日特定の大人にお世話されることで、安心でき、情緒が安定します。そして特定の大人との愛着関係・信頼関係が芽生え、保育園での生活が落ち着き安心して過ごすことができきます。3 歳までの人として土台が育つ乳児期に、一人一人の子どもたちの育ちを援助しています。

●幼児期はたてわり保育をおこなっています。

異年齢の関わりの中で子どもたちは刺激し合い、成長しています。異年齢の中で年長児の子どもたちの遊びや生活する姿を見たり模倣することによって、年中児・年少児の遊ぶ力、生活する力が育っていきます。年齢の違う子どもたちが日々の生活を通して刺激し合い、思いやりや優しさ、譲り合い、協力・協調、我慢など多くの力が保育を通して育っています。

●年間通して菜園活動

園庭の隣には広大な畑を併設しており、子どもたちは年間を通して菜園活動を行います。沢山の野菜が育ち、給食やクッキングで美味しくいただき食育活動にも力をいれています。

●これから少しずつ園の環境をより良くしていきます。

毎日登園してくる子どもたちその保護者の皆様、そして園で働くスタッフにとって素晴らしい園だと思ってもらえるように頑張っていきます。

れしい」「おもしろい」と感じます。そこから「知的好奇心」が育まれ、子どもの自発性や意欲、言葉をはじめとする知的能力、周りの人に対する信頼感を育てる保育として生まれたのが「応答的保育」です。「応答的保育」を実践するためには、保育者の「ことばによる応答」と「物やおもちゃによる応答」「心の応答」といった三つの対応があります。

創立 40 年になる青葉保育園から脈々と継承してきたこの実践を保育の中で生かすために当園は 0, 1, 2 歳児は「育児担当制」の保育を、3, 4, 5 歳児は「異年齢混合保育」を保育方法として取り入れてきました。同一法人 4 か園で外部講師を交え、職員は「観察」「実践」「評価」「考察」など研修を重ねてきました。育児担当制による子どもの安心、大人とのより親密な人間関係の構築、愛着の形成、異年齢混合保育による子ども同士の学び合いやその学びを認め合う、そして何より子どもの主体的な活動を大切にしてきました。子どもが主体的に活動を選び、選んだ活動に集中し、そして「出来た」「やった」という達成感を味わうそんな保育が日々繰り返されています。また環境教育の一環として、エコ活動や外部からの講師による環境講話など毎年 5~6 回本物に触れる体験も行っています。

### 【継承していく保育】

「保育の質」を高めることは永遠の課題です。わらべ歌や手作りおもちゃなど保育士の学びも尽きることはありません。手や足を洗う、服をたたむ、靴をそろえる、スプーンや箸をきれいに持つ、姿勢よく座る、目を見て話す、100% 大人がしていたことを一つ一つ子どもに手渡していく、そんな何気ない日常の丁寧な生活を大切にしていきたいと日々肝に銘じています。そして、長い時間保育園で過ごす子どもたちの安心と笑顔を何よりも大事にした応答的な関わりをこれからも継承していきたいと思っています。

## 新型コロナウイルス関連

宇島保育園 園長 菅原 正堯

## 保育園における 新型コロナウイルス感染症 発生時の対応報告

## はじめに

令和2年4月新年度が始まり、近隣でも少しずつ感染が広がりをみせていた時、職員が発熱で欠勤。新型コロナウイルスの脅威が突然身近に迫ったように感じた。

## 発生から休園まで

4月5日(日)13:30頃、宇島保育園(以下、保育園)職員が新型コロナウイルスに感染した報せを受け、市から2週間の休園要請が入った。年度末に職員の異動もあった為、隣接する乳児保育園も併せて2週間の休園となった。

休園要請を受け、保育園の全職員は感染した職員と濃厚接触の可能性があった為、保育園では園長一人で対応。乳児保育園では、乳児保育園園長・副園長・主任の3人態勢で対応を始める。他の職員は自宅待機とし、適宜連絡をとる。

16:00頃、保健所職員が来園。感染した職員の出勤時の行動確認や現地説明を行った。園内の濃厚接触者を選定する会議の参考資料として、3月・4月のシフト表、園児名簿、園舎平面図を持ち帰る。

17:30頃、保護者へ電話にて休園の連絡を開始する。合間では、保健所との電話でのやりとりも続く。

保護者への電話連絡中に感染拡大防止のため園名を公表したため、マスメディアから取材の連絡が入る。

22:30頃、全保護者への連絡が終了し、退勤。

## 休園中の動き

4月6日(月)より毎日、保護者へ電話にて体温・体調面の变化の有無を聞き取る。また、保健所とのやりとりの中で、濃厚接触者の確定やPCR検査の段取りなどを行う。

4月16日(木)には濃厚接触者の行動制限が解除となる為、全職員が出勤し、園内消毒と園再開に向けた環境整備を行う。

4月20日(月)より園再開となったが、休園中に緊急事態宣言が発令された為、少人数での保育再開となった。

## 発生後に行ったこと

## ○保護者への対応

- ・連絡先一覧表の作成(きょうだい児まとめる)
- ・電話連絡の伝達内容の文章を作成
- ・検温結果を記入する用紙の作成(前日夕・当日朝の2回の熱・体調を書き込む)
- ・PCR検査を受けるか保護者へ確認する
- ・「園からの休園のお知らせ」の文書を作成
- ・「市からの休園要請書」と2枚1部で希望者に送付するようにする(送付希望者を電話連絡時に確認)

## ○市役所とのやりとり

- ・電話連絡の伝達内容について、市役所担当者に確認・訂正をしてもらう。
- ・休園にあたり、保育を必要とする園児の受け皿を設けてもらう(豊前市では以下の3点となった)
  - ①シルバー人材センター(保育士資格有)を利用して各家庭での保育
  - ②市職員(保育士資格有)が市の施設を使っでの保育(3歳以上児のみ)
  - ③市内他園の一時預かりの利用



## ○保健所への対応

- ・PCR検査希望者リストの作成
- ・PCRの一斉検査を行う場所の相談(園舎内を打診されたが、マスメディアの取材の心配もあった為、園舎内での実施はしなかった)

## ○事務的な対応

- ・納品業者に納品ストップの連絡
- ・労務士に勤務などについて相談
- ・検便時期の変更依頼
- ・歯科、内科検診の延期連絡 など

## 当時を振り返って

当時は保育園での発生事例がほとんどなく、市や保健所と確認をとりながら手探りの中での対応となった。

緊急連絡先はクラス毎ですぐ分かるようにしていたが、きょうだい児をまとめた家庭ごとの一覧表を作成していなかったため、全園児漏れのないよう確認しながら連絡先一覧を作るころから始めた。

さらに、年度始めだった為、家庭調査票などの提出期限前に休園となってしまい、緊急連絡先の確認などは前年度の書類で行った。新入園児に関しては、市からの書類などを使用。切れないよう工夫が必要ではと感じる。また、入園式のみ出席し、翌日より休んでいた子もいた為、電話のみのやりとりが難しく感じることもあった。

マスメディアへの対応については、京築保育協会会長である岡村先生に助言を求めたところ、

- ・対応する人を1人に限定する
- ・「対応については市と協議中です」と答えたほうがよい

との助言をいただき、対応した。しかし、保護者や保健所とのやりとりを優先したい中で、マスメディアへも対応しなければいけない状況だったので、マスメディアにはその点も配慮していただければと感じる。

## さいごに

9月現在、園児は通常通り登園し、職員一丸となって感染予防に配慮しながら保育をしている。

いつ、どこで、何が起こるか分からないことを身をもって体験し、これからは地震などの自然災害や事故対策だけでなく新型コロナウイルス感染症の対策も含め、さまざまな事態を想定し、日々の保育の中で常に『こういう事態が起こりうるかもしれない』と予測を立て、対策を講じていくことが大切だと改めて感じる。

(注) この事例は4月時点のものであり、現在は保健所・病院等の対応については変更があることをご了承ください。

## 令和2年7月豪雨関連

草木保育園 園長 宮崎 秀一郎

## 令和2年7月 豪雨災害を体験して



令和2年7月6日、今までに経験したことのない豪雨が大牟田市を襲いました。記録的な大雨により、住宅の浸水、土砂崩れや道路の冠水等、市内各地で被害が発生しました。

午前中から雨は降っていましたが、いつもと違うと感じ始めたのは14時頃。大牟田市内の小学校が下校時間を早めるとの情報を聞いた頃辺りからでした。その1時間後には、あっという間に園庭が冠水し、玄関に水が入ってきている状態でした。短時間で水位の上昇に驚き、直ぐに1階にいる園児を2階のホールへ避難させました。全家庭に至急お迎えに来て頂くようお願いの連絡を行うと「道が渋滞して時間がかかりそう」「道路が冠水しているので向かうことができない」「子どもたちは大丈夫ですか?」と電話が鳴り続け、保護者の方たちの不安やもどかしさを感じました。草木保育園は水位が上がりにくい場所にありますが、保育園につながる主要道路の被害が大きく、お迎えに来る保護者も危険を伴う状況でした。保護者には、安全を十分に確認してお迎えに来て頂くよう伝え、長時間の保育になることを予測し、保育に必要な消耗品や備品を2階へ移動させました。また、おやつで食べる予定だったメロンパンを提供したり、お米を炊いて、おにぎりを作りました。保護者のお迎えを待っている間、園児の精神面が心配でしたが、職員がいつも通り接したおかげで、比較的安定して過ごしている様子でした。19時の時点で残っている園児は21名。おにぎりを食べて、20時には就寝しました。23時頃に、冠水していた道路の水が引いたことで、ほとんどの園児が無事に自宅へ帰ることができました。最終的には3人の園児が保育園で一夜を明かすことになり、職員も一晩中見守り、翌朝、職員が自宅に送り届けました。大牟田市では、その後も局所的な大雨が続き、その度に警報が出たり、道路の冠水や土砂災害の危険により通行止めのエリアが出たりと、不安が続きました。

同じく大牟田市内にある「不知火保育園」では、床上約50cmまで浸水し、ほとんどの備品が使用できない状態になり、休園が続いていました。そのような状況の中、子どもを預けなければ働くことができないと言う保護者の声を受け、廃校していた小学校のランチルームを

市より借り受け、清掃をし、子どもたちの笑顔を守るため、また保護者支援のために、懸命に保育を行っています。

今回、私たちの園では床上浸水や停電等の被害はありませんでしたが、もっと水位が上がっていたら…、電気が使えなかったら…と、数多くの課題に気付くことができました。草木保育園は、洪水ハザードマップでも浸水エリア外であることから、土嚢の準備不足、食料の確保等、対策や想定が甘くなっていたところが多々ありました。災害後、必要な備品や災害時の指揮系統等、非常災害時における対策について職員と意見交換を行いました。印象的だったのは、被災している中、温かいおにぎりを食べている時は、職員も子どもたちもほっと安心できたという事実です。発電機とお米があると良いのでは、という意見も出て、おなかを満たすということは、安心感を生むとうことも知りました。雨がいつまで降り続くのか分からない中、子どもたちの命を守れるのかと誰もが不安な気持ちでした。子どもたちも保護者がいない、いつもと違う状況に不安だったに違いないと思います。そんな災害の時こそ、ほっとする状況を作り出してあげることも大事なのだと感じました。

また警戒レベルについては、様々な意見がありますが、警戒レベル3の時点で、保護者に早急に連絡をするべきだと改めて感じました。台風や大雨が予測されている際に、お迎えのお願いや休園のお知らせを出すと、大した被害はなかったのに判断が早すぎたのではないかと、保護者の方からご意見を頂くこともありました。保育園としても、保護者の仕事の都合を考えたら、できるだけ通常開所をしたいという気持ちがあります。しかし、今回の件で子どもの命を守ることが何よりも優先すべきことであると再確認しました。

今回の災害は「想定外の大雨」として全国ニュースでも取り上げられました。しかし、子どもの命を預かっている私たちは「想定内」として、しっかりと備えなければなりません。この経験を活かし、水害だけでなく、あらゆる災害や危機的状況が起こった場合の対策について、全職員がもう一度考え直し、誰もが同様の対策、対応ができるよう心がけていきたいと思っています。

## 令和2年7月豪雨関連

大橋保育園 園長 草場 慎一

豪雨被害を乗り越えて  
～安心安全な保育園を目指して～

## 【はじめに】

大橋保育園は久留米市東部の田園地帯に位置しており、農業が盛んで、園の周辺は田んぼや畑が多い自然豊かな地域です。そんな自然に囲まれた環境の中で、子どもたちは散歩や戸外あそびを中心に元気にのびのびと過ごしています。

大橋校区は以前から水害の多い地域ということもあり、水害への対策や危機意識も高い地域でした。しかし、近年では日本各地で今まででは考えられないような豪雨災害が起っています。久留米市でも毎年のように「大雨特別警報」が発出されるようになり、床上床下浸水被害が頻発しています。これまでと違い、想定以上の災害が起こるようになり、保育園としてもこれから起こりうる災害に対して危機感をもって対策を講じていく必要があると思います。

## 【平成30年西日本豪雨】

2018年7月上旬、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や家屋の浸水被害が起こりました。久留米市も筑後川支流の河川における内水氾濫により大きな被害を受け、大橋保育園は床上浸水50cmという甚大な被害を受けました。

机や椅子、ピアノなど、園内の多くの備品が水に浸かり、給食室の機材も全て使えなくなるような状態でした。当時の園長の指揮の下、少しでも早く保育が再開できるようにと職員一丸となって床の掃除や、室内の机や椅子の消毒などの復旧作業を行いました。

また、保護者の方々や地域の方々、近くの保育園などの援助もあり、1日休園しただけでなんとか保育ができるようになりました。しかし、全ての保育室が使える状態ではなかったため、保護者にはできるだけ家庭での保育をお願いし、弁当持参での少人数での保育となりました。通常の保育ができるようになるまでは1ヶ月以上かかりましたが、この間、保護者や地域の方々、関係各所の方々からの暖かい励ましの言葉や支援をいただき、たいへん勇気づけられるとともにありがたく感じました。

## 【水害対策について】

西日本豪雨災害の被害を受け、今後も同じような



水害が起これば、また浸水被害を受けることになるので、園児や職員の避難方法や保護者への連絡手段などを見直し、災害避難計画を作り直しました。

施設の面では、床や壁の張替え工事を行うとともに、園内に水が入ってこないように園舎と園庭を囲うように外壁を設け、防水板の設置工事を行いました。

また、毎月の避難訓練に加え、職員研修の中で防水板の設置訓練や研修などを行うことで、職員からも災害対策について多くの意見が出るようになり、災害や安全管理に対する危機意識もさらに高まっていったように感じました。

## 【令和2年7月豪雨】

2020年7月、熊本県を中心に九州各地で集中豪雨が発生し、久留米市全体も大きな浸水被害が出ました。大橋保育園周辺も2年前の西日本豪雨災害のとき以上の水位となりました。

西日本豪雨のときには職員数人が泊まり込みで対応に当たったため、最終的には避難所に避難することになりましたが、今回は事前に防水板を設置した効果により、園庭や園舎に浸水して行くことはなく、被害もほとんど出ませんでした。園児も職員も水が増える前に避難できており、命の危険にさらされることはありませんでした。

## 【おわりに】

久留米市では最近の災害の頻発化・甚大化に伴い、園児や保護者及び保育士等への一層の安全配慮が必要であるとして、「災害時における保育所等の対応基準」が定められました。久留米市が校区ごとに出す「警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始」が発出された場合、対象校区内の保育園は休園とする旨の通知がありました。このことで保護者からの協力も得られやすくなり、保育園の災害対策に対しても速やかな対応が取れるようになりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の様子や近年の様々な自然災害の甚大さなどを考えると、今後どのような災害が起きるかわからない状況ですが、子どもたちや保護者、職員の命を守るため、安心安全な保育園を目指して今後も取り組んでいきたいと思えます。

## column

「たくましい個」  
育てるために  
～ジュニアサッカー～

みずほ保育園 園長 向江 剛



私はサッカーに関わり40年以上となります。1993年Jリーグの開幕と時を同じくして、保育園の向かい側に1,000㎡程度のピッチ兼運動場(現在は人工芝)を確保し、サッカー部顧問で中学校教員を退職した父親(1997年9月他界)と学生時代に経験のある私と二人で小学生を対象としたサッカークラブを創設して、指導を行っています。これまでの27年間で約200名の子ども達が巣立っていき、現在も50名程度の子ども達とサッカーというスポーツを楽しんでいます。

さて、世界各国では時代とともにスタイル、タイプ、プレイ、システム、戦術、考え方など、いろいろなサッカーがあります。また数多くの指導方法もある中で、私自身も指導者ライセンスや審判資格を取得し、現在も試行錯誤をしながら、指導やチームづくりをしています。10数年前からは、ジュニアサッカーが「11人制」から「8人制」に移行し、「どんな指導をするのか?どんなチームをつくるのか?」私自身も日々悩みました。

そんな時、元プロサッカー選手で、過去に数回の全国大会にも出場経験のあるジュニア&ジュニアユースのチームで指導している後輩は、すでに10数年前から「勝つこと」よりも「個を育てる」、次年代に繋がる指導・育成方法へ方向性を変えていたのです。現在その後輩には、当保育園でキッズサッカーと、当ジュニアチームの指導を週1回行ってもらっています。

ここで、当サッカークラブで「個を育てる」ための取り組みをいくつか紹介します。

まずサッカーだけでなく「生活態度」=挨拶をすること、遅刻や忘れ物をしないこと、準備や片付け・整理整頓を行うことなど生活面での規則やルールが守られているかを重視し、それを基に試合などの選手選びを行っています。どんなにチームの中心選手であっても「勝つこと」だけを目的にしないことで、逆に子ども達は「勝ちたい」という思いから、それぞれが自然と助け合い、協力し合うようになります。そうなれば、こちらの思惑どおりにピッチ内外において「個」が成長してくれます。

次に「プレー」では、基礎はもちろん、個人技やテクニックを重視しています。特に基礎ではリフティング。数多く出来るからサッカーが上手いとは言いきれませんが、結果がはっきりと数字で結果が出ます。子ども達にとっても明確となることから、試合に出場させるための判断材料とします。下級生であっても試合に出たい子は、上手くなろうと努力をします。すべての子どもが同じようにというわけにはいきませんが、その努力や自らのチャレンジが「個」を成長させてくれます。

なお、「生活態度」や「プレー」が出来ないからといって試合に出場させない訳ではありません。大会の該当学年を優先して、現段階で出来ていることを確認しながら「3試合中1試合だけ」「前半だけ」「後半だけ」など、個々の力に合わせ多少の交換条件をつけながら、チャンスを与えるようにしています。

最後になりますが、私の学生時代はマラドーナの全盛期でした。少し前は、ロナウド、ジダン、ロナウジーニョ、ベッカム、イニエスタなど…。現在は、メッシ、Cロナウド、ネイマールなど一人で流れを変えられる素晴らしい「個人技」を持っています。ほとんどの指導者はチーム内にメッシが「11人(8人)」は必要ないといいますが、私はチーム全員がメッシだと「いいなあ〜」「楽しそうだなあ〜」「おもしろそうだなあ〜」「10点取られても11点取れそうだなあ」という気がします。そんなチームが出来る様な気がします。何点取られても下を向かない、最後までチャレンジする「たくましい個」が成長してくれるのではないかと考えながら、ここ数年は指導やチームづくりを行っています。

近年新たに女子サッカーにも携わるなど、まだまだサッカー人生の終わりはみえませんが、私自身が日々「学び」ながら、すべての子ども達が、まずはサッカーというスポーツを「Enjoy」し、その中で「たくましい個」が育つ環境をつくりながら、これからも活動していきたいと思っています。

## 【編集後記】

コロナ禍の中、三期目の広報部長に就任することになりました。令和2年度は、例年と違って研修会の中止・延期等もあって発刊数も3号から2号へと縮小となりました。新しい広報部員を加え、会員の皆様にコロナ関係のさまざまな情報やコロナ禍でも子どもたちの可愛い活動等を「みつけた!」に掲載し、発刊していきたいと思えます。

広報部 猿渡

発行日 令和2年10月30日  
発行者 万田 康  
編集者 猿渡 保生  
発行元 公益社団法人  
福岡県保育協会  
春日市原町  
3丁目1-7  
TEL 092-582-7955  
FAX 092-582-7956

## 令和2年7月九州豪雨被災施設視察（事務局報告）

7月31日に万田会長と岡村副会長は、今回の九州豪雨で甚大な被害を受けた久留米市の文殊乳児保育園、大牟田市の天領保育所（公立）、不知火保育園及び小鳩保育園の4施設を訪問し、被災状況等を視察しました。

文殊乳児保育園は2年前の西日本豪雨時でも被災し、万田会長と岡村副会長が視察を行った保育園です。今回が2度目の被災となりました。床上10～15cmの浸水があり、フローリングは至る所で隆起し、1Fの保育室及び事務室・給食室は使用不能の状態、壁にも水が流入してカビが発生し、かなり不衛生な状態となっていました。2Fの保育室は被害を免れたため、ここを使って保育を行っている状況でした。

天領保育所はテラス全体及び倉庫が浸水し、テラスの床は隆起しているため改修の必要が生じていました。保育室内の床クロスは剥がれかけており、倉庫内のマット等体育用品は水没し、テントの支柱は破損していました。また、給食室勝手口の壁部分も水圧により破損していました。

不知火保育園は園舎が平屋であるため、保育室・事務室・給食室・倉庫・トイレ等全てが50cm程度浸水し、各保育室はフローリングが隆起してカビ等が発生し、保育園全体が不衛生な状態で、完全に使用不能の状況でした。給食設備・事務用品に至るまで被害が出ていたため、被災後、近くの小学校の廃校舎を借りて保育を継続していました。

小鳩保育園は園舎自体には被害はありませんでしたが、倉庫が床上浸水してスピーカーや体育用具等が浸水の被害に遭い、農園も一部陥没の被害が出ていました。

各園とも、避難指示等の連絡を受け、速やかに保護者への連絡や的確な避難誘導により、人命に関わるような被害が出なかったことは幸いでした。日ごろから防災に対する意識を高め、備えをしっかりとしておく必要であることを改めて考えさせられました。

当協会としては、今回の豪雨災害に遭われた園に対しまして、お見舞いを申し上げますとともに、九州保育3団体、全国保育3団体、当保育協会、そして県保育事業協会のお見舞い等に係る事務手続きを進めているところです。

他にも大きな被害のあった施設がありましたが、日程の関係で視察できませんでした。被害にあわれた施設の一刻も早い復興を願っております。



文殊乳児保育園（久留米市）



文殊乳児保育園（久留米市）



天領保育所（大牟田市）▲テラス、倉庫が浸水



不知火保育園（大牟田市）



不知火保育園（大牟田市）